

第3回府中市市民協働推進会議 会議録

- 日時 平成28年7月25日(水)午後2時～午後3時半
- 会場 市役所北庁舎3階第3会議室
- 出席者 (委員)
藤江会長、長谷部副会長、石坂委員、雄勝委員、奥村委員、志水委員、関口委員、松木委員、吉井委員
(事務局)
中川市民協働推進本部長、岩田市民活動支援課長兼市民協働推進担当主幹、松本市民活動支援課長補佐、金崎市民協働推進担当副主幹、新妻市民協働推進担当主査、佐藤事務職員
- 欠席者 神野委員、長島委員
- 傍聴者 なし
- 議事
 - 1 開会
 - 2 議題
 - (1) 第三者評価シートの作成及び答申案の作成について
 - (2) 平成29年度提案型協働事業の応募状況等について
- 資料
 - 1 第三者評価シート(案)
 - 2 平成29年度市民提案型協働事業応募状況一覧

1 開会

(会長) 定刻になりましたので、第2回府中市市民協働推進会議を開会いたします。事務局から本日の委員の出席状況などについて、報告をお願いします。

(事務局) 本日はご多忙のところ、本会議にご出席いただき、ありがとうございます。事務局から何点かご報告を申し上げます。

まず、本日の出席状況でございますが、神野委員、長島委員から欠席とのご連絡をいただいております。

本日は定数11名中9人の委員の皆様に出席をいただいております。

したがいまして、過半数に達しておりますので、本会議は有効に成立していることを併せてご報告します。

続きまして、本日の傍聴ですが、申込みはありませんでした。

(※事務局より資料の確認)

(事務局) 最後に、本日の流れについてです。

本日の議題は2点ございまして、1点目が第三者評価シートの作成及び答申案の作成についてです。

まずは、前回のヒアリングの状況等について、各グループで実施した評価結果の共有を行っていただき、市民協働推進会議として、第三者評価シートを作成いただきます。

また、個別の評価を通して感じたことや評価を終えての感想や改善点など、答申の基礎となるご意見を頂戴したいと考えております。

2点目が平成29年度提案型協働事業の応募状況等について、ご報告するものです。

事務局からは以上でございます。よろしくお願いたします。

(会長) それでは、議事を進めます。前回7月13日に実施した第2回の会議の議事録につきましては、事前にご確認いただいておりますが、修正等でお気づきになることはございますか。

よろしいでしょうか。それでは、第2回目の議事録として確定いたします。事務局は、前回の議事録及び資料を、公開するよう手続きをお願いします。

2 議題

(i) 第三者評価シートの作成及び答申案の作成について

(会長) これより議題に入ります。議題の1「第三者評価シートの作成及び答申案の作成」事務局から説明をお願いします。

(事務局) まず、先日のヒアリングは短い時間の中、ありがとうございました。

先にお伝えしたとおり、本日は、前回のヒアリングの状況等について各グループで実施した評価結果を情報共有していただき、本会議として、第三者評価シートを作成いただきます。

また、個別の評価を通して感じたことや評価を終えての感想や改善点など、答申の基礎となるご意見を多く頂戴したいと考えております。

本会議の諮問事項である「市民協働の推進に係る取組の進捗状況等についての評価・検証」と、「協働事業等提案制度に基づく協働事業の選定」を、9月30日までに答申することとなっておりますことから、次回の会議の資料として、答申案をご提示する予定ですので、ご承知おきください。

なお、答申案の構成としては、評価に当たっての視点や感想、改善点などの総評、各事業の第三者シート、資料編として、当会議の委員名簿、主な検討経過、協働事業等評価実施基準、評価シートの様式を想定しており、約30ページ前後になるのではと想定しております。

今後の流れについてですが、次回の会議であらためてご説明いたしますが、次回の検討結果を反映し、資料の修正を行いまして、議事録の確認とともに、9月上旬頃までに再度委員の皆様にご確認いただく予定でございます。

それでは、資料1をご覧ください。

前回の会議において、グループに分かれて事業のヒアリングを行っていただいた後、各グループでの意見交換を踏まえ、評価作業を行っていただきましたが、1グループの水辺の楽校運営事業については、前回の会議の日程と、事業の日程が重複してしまったため、本日の会議の前の時間で、市民ヒアリングを実施いたしました。

詳細につきましては、各グループの委員にご報告いただければと思いますが、参考として、質疑応答や評価に関する意見交換を添付しておりますので、適宜ご参照ください。事務局からは以上でございます。

(会長) 3つの事業を2つのグループで評価しましたので、お互いの作業状況を情報共有したいと思います。

評価の基準やバランスにもつながる作業となりますので、各グループの発表を聞いてから質疑応答を行い、本会議としての評価を行いたいと思います。

また、答申につながる意見をいただくということで、評価作業についての全体の感想をお聞きしたいと思います。

まずは1グループの事業の報告をお願いします。

(委員) 第1グループでは、水辺の楽校、W a i W a i フェスティバル、府中市民桜まつりの3つの事業を評価しました。

その検討状況と評価結果について報告します。

「水辺の楽校」の事業概要ですが、自然体験が少ない若い親世代も子どもと一緒に川を遊んで安全を学びながら学習することにより、川に慣れ親しみ、身近な自然の大切さを学ぶ機会を提供している事業で、小学校が実施する総合的な学習の時間を活用し、多摩川での自然環境学習も支援しています。

協働先の水辺の楽校運営協議会は、高齢者世代、自治会、学校教諭や市民団体など多種多様な人材で構成され、国土交通省の河川管理者や多摩川漁業協同組合、府中市郷土の森博物館などとも連携した体制を作っています。

評価結果ですが、全員一致で、この事業をAといたしました。

その理由といたしましては、運営協議会に様々な主体が関わっているためスムーズな運営ができており、予算も100万円程度と妥当であり、成熟している事業であること、また、小学校の総合学習への反映や、他市との連携など、活性化している事業であるためです。

本日、市民へのヒアリングを行いました。実行している方が自信を持って活動されている印象を受けました。

次に、「W a i W a i フェスティバル」について、市民に対して障害福祉に関する知識の普及及び理解を図ることを目的に実施している事業で、事業内容としては、障害や障害のある方に関する講演会やコンサート、作品展等を実施するというものです。

協働先の実行委員会は、市内の福祉施設等で構成されており、中間支援組織として、府中市福祉作業所等連絡協議会に協力をいただいています。

評価結果に関しましては、これも全員一致でCとしました。

理由としては、役割分担の整理等が不十分であり、実行委員と行政との連携が完全ではないため、それぞれ特性等を再確認し、市民に一層協働の概念を理解いただくことで、基礎が固まり、更なる発展が期待できるのではないかということで評価いたしました。

最後に、「府中市民桜まつり」ですが、市民が自然に親しみ、市民相互の交流と親睦を推進する事業で、例年4月初旬の土・日曜日に府中公園、寿中央公園をメイン会場とし、模擬店やステージ等の催し物や、桜通りや公園通りで歩行者天国やパレードを実施しています。

協働先の実行委員会は、コミュニティ協議会を中心に、観光協会や明星大学、東京農工大学の学生などで構成され、商工会議所、京王バス、警察などの多様な主体が協力しています。

評価結果に関しましては、意見がまとまらなくて、非常に難しい状

況になりましたが、評価はBといたしました。

その理由としては、特性を生かしながら役割分担をしており、事業の関わり方としても、評価できる事業であるが、毎年行われている内容に変化が見られず、毎年同じような人が同じような役割で参加しているため、マンネリ化が激しいためです。

府中市をあげて実施している催し物であり、予算を十分に使って事業を実施しているのであれば、関係者全員が知恵を出し合い、アイデアがあるものにすれば、更により事業となるのではないかとの意見がありました。

従って、一部改善をすることで、更なる発展が期待できるとの意見がまとまりましたので、報告いたします。以上でございます。

(会長) ありがとうございます。2グループの発表をお願いします。

(委員) 「府中市民芸術文化祭」は、市民が自主的に展開している芸術文化活動について、日頃の成果を発表する機会を設けることで、市民相互の交流や芸術文化の向上を図ることを目的に実施している事業です。

ヒアリングの時にパンフレットが配られましたが、9月から11月までの3か月間、様々な団体が多様な会場を使って、活動の発表や展覧会を行うという事業でした。非常に大がかりな連合展という形で行われており、事業の目的が明確で役割分担もはっきりしているため、協働事業として評価できると判断され、評価はBとなりました。Bの中でも、より良い方のB評価です。

次に、「地域ごみ対策推進事業」は、文化センター圏域ごとに、自治会からごみ対策推進員を選出いただいて、総勢800人から900人の推進員が、地域でごみ減量や分別の徹底を呼び掛け、リーダーとして、市と市民のパイプ役となり、ごみ減量の推進をするという事業です。

当該事業の評価は、約900人という大組織に対して、より良い関係性を構築できるよう、工夫をしながらコミュニケーションをとっていることが評価され、Bとなりました。

最後に、「農業まつり」は、都市農業の育成と簡単に書いてありますが、地産地消の推進や農業者と市民とのふれあい、都市農業のPRによって、農業の振興を図ることを目的としており、内容としては、農産物の直売会や模擬店、野菜等が当たる参加型のゲーム、農業写真コンクールの作品展示、野菜の宝船の展示、農業相談等を実施するというものでした。

印象としては、お膳立てから何まで、市が全て行っており、役割分担が不十分との印象があったため、Cという評価になりました。

第2グループの報告は以上です。

(会長) ありがとうございます。

2つのグループから報告があり、評価の理由についても報告がありましたが、質疑応答をし、もう少し情報を共有したうえで、会議全体として評価をしたいと思います。

質疑応答の際には、最初にこの事業についてという事で質問を出していただければと思いますが、ご質問はありますでしょうか。

(委員) 1グループの「W a i W a i フェスティバル」について、役割分担の整理が不十分とは、具体的にどのような感じだったのでしょうか。

(委員) 参考の「ヒアリング」の8ページの下をご覧くださいなのですが、「責任の所在が曖昧になった部分もあり、どちらが動くか明確にすることが課題である」と記載があります。従いまして、実行委員と行政のどちらに責任があるのかうまくすり合わせができなかった状態で、夜遅くまで作業があつて困つたと言っておりました。内容としても実行するに当たって苦勞したという発言もありました。

(委員) その課題は、協働の主体である市及び市民の双方から挙げた意見なののでしょうか。もしくは、どちらか一方の発言なののでしょうか。

(委員) 市民の発言です。仕事が終わってからW a i W a i フェスティバルの作業を行っていたため、両立しなければならぬということでした。

(委員) ありがとうございます。

(会長) 2グループでは、B評価が2つ、C評価が1つとなっています。それぞれの事業でトーンが少しずつ違うとのことでしたが、一部改善とは、具体的にはどのような改善点だったのでしょうか。

(委員) 「芸術文化祭」は調和がとれた事業ではありましたが、参加者に高齢者が多いという話がありました。参加団体が自立して行っているとのことで、それなりに子ども生け花等にも取り組んではいりましたが、学校等の異なる機関とも協働することで、更なる発展が望めるのではないかと考え、Bとなりました。

(委員) 「ごみ対策推進事業」について、ビニールや金属を除けば高周波でごみを分解できるものがある。話が脱線しているかもしれないが、今はこのような時代になっている。ごみ対策も時代に合わせて実施すると、推進が図れるのではないか。

(会長) ごみ減量と分別、処理技術についても絡めながら検討していただければという要望でした。

農業まつりのC評価について、以前本会議でも相互評価シートを見た際に話題となりましたが、ヒアリングを踏まえ、「一部改善の必要があるが概ね適切」という点は変わらないのでしょうか。

(委員) 自己評価が1.8と非常に低く、当初はやる気があるのだろうか、もしかすると、事業をやめたいという心の叫びがあったのではないかと感じました。

農業まつり自体は、一般の参加者は安くて新鮮なおいしい野菜を手に入れることができるため、行列ができるほど人気があります。しかし、農業振興という目的で実施しているため、パネルなどを見て農業に関心を持ってもらいたいという思いがあるそうですが、参加者は野菜を入手するとすぐに帰ってしまい、パネルを見てもらうことができないという状況にあるそうです。何とかしなければという思いもあるようなので、例えば、協働相手を学校や飲食店、自然環境や防災等に広げていくといったアイデアを、評価側が提案した方がいいのではないかと話になりました。

非常に真面目に取り組んでいるため、もう少し評価が高くて良いと感じるが、真面目に1.8との自己評価をつけていたため、頑張っ
てほしいという期待を込めてCとしました。

(会長) 補足等がありますでしょうか。

(委員) 農業まつりについて、自己評価があまりに低いので、何が問題なのかという視点でヒアリングに臨みましたが、目的が達成できない状態は課題として捉えることができていると思いました。

農業者が協働相手ですが、農業者が協働先でないと実施できないため、まさに協働で実施するべき事業であると思います。

事業の中身についての検討は、行政も市民も必要と感じており、課題の共有はできていますが、中々そこから先に進んでいないというのが現状です。

協働事業としてふさわしいが、中々先に進んでいかないという現状から、残念ながらCということになりました。

(会長) 第三者評価シートを見ると、「市民ニーズを把握しながら事業内容を見直す」と記載があるが、今の話を聞くと、市民ニーズを強調しすぎると、狭い理解で捉えられてしまうのかもしれない。

(委員) 「農業を広めたい、府中の農業を知りたい」と思う人が農業まつりに来ていらっしやらないので、そういった人たちに農業まつりに来ていただくための事業内容を検討する必要がありますが、どのようにしたらいいのか悩んでいるように感じました。

(会長) 市民ニーズも様々あるということ、そして協働の広がりを持たせる必要があるということでした。

(委員) アドバイスをしたくなる事業でした。農業に関心ある方もいらっしやることから、そのような人たちとも相談してみてもどうかと感じま

した。

(委員) 農業まつりは、予算規模としてはどの程度でしょうか。

(事務局) 以前配付した資料の「協働事業実績調査」によると、88万3千円と記載があります。

(会長) その他、質問はよろしいでしょうか。この後、評価のグレードについても確認いたしますが、いかがでしょうか。

(副会長) 1グループの「W a i W a i フェスティバル」はC評価となっておりますが、第三者評価シートの事業についての欄に、「ただのイベントとして終わらないよう、市民全体の取組としてPR方法を検討し、継続いただきたい」と記載があり、これは、事業そのものはお祭りのように1回のイベントとして行うが、目的としては継続的に取り組むべきという思いが実行委員と市にあることから、このような一文となっているのでしょうか。

(委員) 参考の9ページに記載がありますが、「協働の難しさが出てきている。責任の明確化や事業のPR方法を考えないと継続が難しいのでは。市と実行委員会ともう少しすりあわせを行うと良いと考える。AやB評価は難しいのでは。」と発言がある。これは、集客やPRがまだ十分でないことから、障害者団体が集まるだけの事業ではなく、広く一般の方に参加いただき、もっと広げていくために真剣に考えていかないと、継続は難しいことから、頑張っていたきたいとのことで、このような記載になっています。

(副会長) 現在の参加者は障害者の方が中心となってフェスティバルを実行しているもので、広く一般の方々と交流をしないと難しいということですね。ありがとうございました。

(委員) 同じく「W a i W a i フェスティバル」の第三者評価シートの協働の広がり欄で、「中間支援組織を一層活用し」とありますが、この場合の中間支援組織とは、作業所等連絡会を指しているのでしょうか。

(会長) 私の印象ですと、今の質問に留まらないのですが、この事業は8回重ねてきていますが、市民側は本来の仕事を終えた後、事業の準備を行っているので、負担に感じています。行政側でコミットしてくれる方が増えてきているため連携は進んでいますが、参加や取組の規模という点において、先程の委員の説明であったように、広がりを持たず、事業を実施することで手一杯な状況にあります。

準備してくださる実行委員会が障害者関係の組織だけなのか、そうではなくてもっと広がりを持っているのかもしれませんが、参加者を一般の市民にも広げていくという意味においても、中間支援組織というのは2つの意味として捉えることができると理解しています。

(委員) 作業所での仕事をしながら準備もしているため、負担があるとのことですが、作業所で働いている方の集まりが連絡協議会という母体なので、実施主体も中間支援組織も同じなのではないでしょうか。

(会長) 市民側で動ける方が限定されているため、過大な負担となり、行政が応援に入っています。連絡会の中で動ける人は依然として少なく、変わらないのかもしれませんが。

中間支援組織ということであれば、もう少し広がりを持たせて、多くの方に知ってもらうような企画等を実施していく必要もありますし、グループの中でも、別の企画とタイアップしても良いのではという意見もありました。

中間支援組織は2つの意味と考えていますが、おっしゃられるとおり、マンパワーとしては変わらないかもしれないと受け止めましたが、いかがでしょうか。

(委員) ここでいう中間支援組織は、作業所等連絡協議会のことを指していると感じています。会長がおっしゃられたように作業所等連絡会もそうですが、実行委員会の構成員も福祉施設や学校などの方が多いため、さらに広がっていけば、より良い事業となるのではないのでしょうか。

(会長) その他いかがでしょうか。他になければ評価結果を確定したいと思います。

「水辺の楽校」についての評価はA、「W a i W a i フェスティバル」についての評価はC、「府中市民桜まつり」についての評価はB、「芸術文化祭」についての評価はB、「地域ごみ対策推進事業」についての評価はB、「農業まつり」についての評価はCということによろしいでしょうか。

(委員) 異議なし。

(会長) ありがとうございます。評価の評点は確定とし、今日いただいた意見等、評価の結論からまとめの部分の文言については、正副会長預かりということによろしいでしょうか。

(委員) 異議なし。

(会長) それでは、事務局は意見等を踏まえた資料修正をお願いいたします。

資料として紹介もありましたが、事前に皆さんのお手元にメモとして届いていると思います。個別の評価を通して、共通して感じたことや評価を終えての感想、次年度に向けての改善点等について、感想等をいただきたいと思います。評価作業を行うのは大変だったと思いますので、言いたいこともたくさんあるかと思います。

ここで少し時間を取って、各委員からご紹介いただきたいと思います。

(委員) まず、評価に当たって気を付けた点ですが、協働の原則に従って取り組んでいるか、各主体の強みを生かしているか、相乗効果が出ているか、協働の広がりの可能性や事業の発展性があるかという点です。

評価を通して感じたことは、ヒアリング自体の時間が短かったことでもあります。事業実施者からの報告が事業内容の総括中心となってしまうため、視点として協働がある以上、協働事業としての報告をいただいた方が良いと感じました。事業内容の報告となった流れで、ヒアリング内容も事業内容にいつってしまう傾向にありますので、協働事業としての質問が分散してしまい、短時間のヒアリングで行うのであれば注意した方が良いと感じました。

短時間のヒアリングですので、その後委員内で意見交換をする中で、更に疑問点や確認したい点が出てくるので、どのように解決するかも検討が必要であると思います。

次年度に向けて改善したい点は、時間を含めてヒアリング方法の検討を行うことが、適切な評価をするためには必要と感じました。

(委員) 15分というヒアリング時間の中で事業を評価することは、誠に大変な作業であることが分かりました。

評価に当たって注意したことは、1番目は予算、2番目はその内容、3番目は参加団体・参加人数、4番目は今後の発展性についてです。

(委員) 時間がもっとあれば良いと感じました。実施主体のプレゼンで、市の担当者の説明が長く、“本音”が聞けない部分がありました。“本音”を引き出すことで評価も変わったのかもしいないと思います。

評価のポイントとしては、実施団体がイベント等について、きちんと“協働”という点から捉えているかという点に気を付け、イベント事業の将来的な発展性を確認しました。もう少し、主体の本音が聞きたかったです。

(委員) 短い時間での評価は難しいと思います。事業については、マンパワーの活用による予算の面が気になりました。

(委員) 他の委員と同様、時間が短いと感じました。

ヒアリングに当たっては、協働についての理解を共有しているかに注目しましたが、質疑応答ではほとんどの質問に行政がそつなく応えてしまっていたため、もう少し市民の本音を聞きたかったと感じました。

また、配付された資料ですでに分かっている情報が多かったことから、時間を有効活用できれば良かったと思います。

他の委員にも共通していると思いますが、ヒアリングをしながらシートを記載するのはつらかったです。事前に配付された資料をよく

読み、あらかじめ問題点や質問事項を、優先順位をつけて整理しておく必要があると痛感しました。

(委員) ヒアリングに当たっては、チェックする項目を「ミッションの共有ができていないか」、「成果・課題を共有できていないか」、「協働が必要な事業か」という3点に絞って実施しました。

ヒアリングの中では、評価に入る前に、チームの中でどのような質問をするかのすり合わせを行うことが必要であると感じ、また、中間支援組織や協働事業の構成員が協働事業の実施に当たっては非常に大きな役割を持つと感じました。

(委員) だめ出しをするわけではなく、今回の評価作業は初年度であるため、協働に対する理解を深めてもらえるような評価を心掛けました。

評価を通じて感じたことは、複数の事業を評価すると、絶対評価ではなく相対評価になりがちであったため、より明確な基準を設ける必要があると思います。数をこなしていくしかないのかもしれませんが、委員相互の意見交換により合意が得られ、評価できたことはとても良かったです。

次年度に向けては、協働の視点をもう少し大きく捉え、市と団体の協働に留まらず、様々な主体の協働といった視点について、広く周知されると良いと思います。

(副会長) ヒアリングに当たっては、市と団体とのコミュニケーションが密に取れているか、協働として実施できているかという点に注意しました。

前の委員の発言にもあったとおり、私自身も相対評価になってしまいました。市民提案型協働事業の評価のイメージが強かったため、行政ばかりで市民が何も発言していないという印象を受けて戸惑いましたが、事業が違えば評価も違うということ意識する必要性がありました。

次年度に向けて、市民の声もしっかりと聞くことができるよう、工夫をする必要があると思います。

(会長) 水辺の楽校推進事業については、前回会議に市民が出席できなかったため、本日ヒアリングを実施したが、やはり30分程度の時間があつた方が良いと感じました。両者から意見を聞くことで、より正確に事業を評価できるものと思います。また、事業自体を実際に見てみないと評価作業も難しいと感じました。

また、評価のランキングについて、市民が主導か、市が主導か、もしくは対等なのか、また、どのような主体との協働なのか等、評価対象の選定方法も検討する必要があります。事前に事業のふり分けを確認できると良いのではないのでしょうか。

また、5段階評価については定義を見直し、次年度につなげていきたいと考えています。

(事務局) いただいた意見については答申案の中に盛り込み、次回会議で提示させていただくとともに、次年度に反映していきます。

今回の評価に当たっては様々な課題も残りましたが、A評価の事業のように、協働による相乗効果も多く見られたことから、協働による効果についてもご意見をいただき、答申案に反映したいと考えております。

(会長) 協働による相乗効果について、意見をいただきたいとのことですが、いかがでしょうか。

(委員) 事業に関わる人が多ければ多いほど、手間が増えて事務局は大変になります。しかし、協力者が増えることで、協働について理解する市民も増えるという効果が期待できると思います。

水辺の楽校については、他市でも同様の事業を実施しており、市民が他市の良いところを見つけ、事業に生かしてくれています。情報がクローズされておらず、多摩川周辺で情報交換されているのは非常に効果的だと思います。

(会長) 事業全体を見ると、約5割が市主体の事業となっていることから、いかに市民側の主体を増やすことができるか、どのような形であればより協働の可能性があるかという点が重要であると考えます。

また、しんどいサービスをどのように協働で実施するか、というピックアップの方法もあると思います。市民も行政も大変で、協働でないと解決できない領域もあります。無理のない事業が継続していくことから、そのような事業があれば、負担減らしていくという相乗効果があるのではないのでしょうか。抽象的な表現ですが、高齢化で地域のコミュニケーションが減っていく中で、いかに継続させていくかという点が、協働の必要性のバックグラウンドにあるものと思います。

(委員) 7月23日、24日に地域まつりが開催されました。極端な言い方をすると、この事業は協働のかたまりのようなもので、自治会、小学校、PTA等、ありとあらゆる主体が参加し、楽しんで実施しています。桜まつりもさることながら、地域まつりも取り上げることで、活性化のための参考になるのではないのでしょうか。絶えず新しいことに挑戦しながら、大いに発信し、11文化センター同士で刺激を与えながら盛大に実施していく必要があると思います。

(事務局) コミュニティ協議会と市との協働事業は、府中市としては協働の象徴的な事業であると考えています。今回は評価の初年度のため、幅広い分野から満遍なく事業を選定しました。当然、今後様々な事業を評

働いただくことになるため、地域まつり又はコミュニティ協議会との協働事業として、取り上げていくことになると考えています。

(委員) 地域まつりがはじまって今年で40年になります。節目の年となつて非常によかったと感じています。

(会長) ありがとうございました。

それでは、事務局は意見等を踏まえ、次回の答申案に向けた資料作成をお願いします。

(2) 平成29年度提案型協働事業の応募状況等について

(会長) 続きまして、議題2「平成29年度提案型協働事業の応募状況等」について、事務局からお願いします。

(事務局) それでは、「平成29年度提案型協働事業応募状況」について、ご説明します。恐れ入りますが、資料2をご覧ください。

平成29年度に実施を希望する事業につきましては、6月1日から17日までの期間を事前相談受付期間、7月1日を提案書提出期間とし、現在、市担当課と調整を行っておりますが、市民提案型協働事業については4事業、行政提案型協働事業3事業の計7事業提案がございました。

提案をいただいた各事業の概要について、市民提案型協働事業からご説明いたします。

1件目の事業ですが、NPO法人手のひら健康バレー協会により提案された「マイ・ベスト・チャレンジ!イベント」という事業です。

これは、手のひら健康バレーについて、与えられた時間内に何回パスができたかの記録に挑戦する「マイ・ベスト・チャレンジ!イベント」の開催と、参加グループへの講習会を実施するものです。

担当課は文化スポーツ部生涯学習スポーツ課でございます。

2件目の事業ですが、NPO法人サポーターズ・クラブにより提案された「TAMA介護福祉フェア」という事業です。

これは、専門家によるセミナーの実施や、介護福祉用具等を高齢者自身が手に取って選ぶことができるフェアの開催を行うものです。

担当課は福祉保健部高齢者支援課でございます。

3件目の事業ですが、ひな草の会により提案された「シンポジウム『もっと公園に行こう!』」という事業です。

これは、公園に関する基調講演や「こんな公園があったらいいな」など、理想の公園を府中の地図に落とし込むワークショップを開催するものです。

担当課は都市整備部公園緑地課でございます。

4 件目の事業ですが、YA@府中～The Young Americans により提案された「歌って踊って小さな勇気をもってチャレンジしよう」という事業です。

これは、アメリカにある NPO 団体学校「The Young Americans」を講師とした講習及びショーの披露を行うものです。

担当課は市民協働推進本部市民活動支援課でございます。

続きまして、行政提案型協働事業についてご説明いたします。

1 件目の事業は、政策総務部政策課が提案した「東京オリンピック・パラリンピック競技大会関連事業」でございます。

提案団体は、一般社団法人 府中文化村で、具体的な取組としては、「外国人観光客増を見据えた観光案内事業」を行うものです。

2 件目の事業は、市民協働推進本部市民活動支援課が提案した「協働に関するミニシンポジウム」でございます。

提案団体は、NPO 法人アビリティクラブたすけあい府中たすけあいワーカーズぽぽで、具体的な取組としては、基調講演や市民による取組などの事例紹介を行った後、ワールドカフェを行うものでございます。

3 件目の事業は、市民協働推進本部市民活動支援課が提案した「市民協働啓発動画の作成」でございます。

提案団体は、府中まちコム舎で、具体的な取組といたしましては、協働に対する興味を惹起するためのアニメ動画の制作でございます。

事業についての説明は以上でございますが、この 7 事業について、8 月 3 日（水）に公開プレゼンテーションを開催いたします。

提案型協働事業部会員の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

なお、提案書の最終提出日が 7 月 29 日となっておりますので、資料の送付が公開プレゼンテーションの間際になってしまいます。

大変恐縮ですが、よろしくお願いいたします。

事務局からは以上でございます。

(会長) 質問等はございますでしょうか。それでは、提案型協働部会の部会員の皆様よろしくお願い致します。

3 その他

(会長) それでは、議題 3 のその他として事務局から何かありますか。

(事務局) 事務局から、1 点、次回の会議の日程についてでございます。

次回は、8 月 17 日（水）午前 10 時から、西庁舎 3 階第 3 委員会室で行います。

内容といたしましては、2 点ございまして、1 点目が協働事業等評

価の答申（案）について、2点目が平成29年度提案型協働事業の答申（案）についてです。

（会長） 会場がいつもと違うという事ですね。

それでは、次回の会議は、8月17日ということで、よろしく願いします。以上をもちまして、本日の会議を閉会いたします。お疲れさまでした。

以 上